

日刊 動労千葉

85. 10. 8
No. 2058

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

国鉄労働者をなめるんじゃない！



この1カ月間に、11万8千余の仲間を処分 11月怒りのストで 目玉もの見せてやるぞ！

十月五日、国鉄当局は、去る九月十七日のワッペン・名札処分につづき、さらにこれを上回る六四四〇〇名もの大量不当処分を通告してきた。八七年四月「分割・民営化」一十万人首切り強行へ向け、労働者にトコトン屈服をせまろうとするかかかる凶暴な攻撃に対し、腹の底からの怒りをこめ、不当処分粉碎の闘いに直ちに総決起しよう。

「労使確認」は反古—— 「処分」だけは乱発

処分理由は、本年二月の動労千葉の「60・3ダイ改」阻止闘争・国労の8・5ストを中心とする監理委答申抗議行動というものであるが、「60・3」での二百名の合理化＝殺人的ダイヤのおしつけ、運転保安の無視に対し怒らない労働者がいないとでも思っているのか。

しかも、われわれの要求であった「勤務の緩和のための調整非番日の設定」の要求を無視し、「過員」と要員との区分けのみを目的とした「業務開発センター設置」を強行したのをはじめ、この間の

団交における労使確認をことごとく反古にするという暴挙を重ねてきたのだ。さらに、運転保安に直結している「通勤の問題点」に関する交渉を拒否しておいて、ただただ「処分」のみを押しつけてくるなど、断じて許せない！

処分のムチで屈服

なんかするものか！

十一月ストで大反撃だ

処分数においても、九月の五万四千名と合わせると十一万八千四百名、実に国鉄労働者の二・五人に一人という膨大な数である。

千葉局においても、国労、動労千葉の「停職三月（一月）」をはじめとして一四四七名の大量処分を通告してきた。処分につぐ処分攻勢で労働者を屈服させ、差別・選別を行おうとするこの攻撃は、まさに、動労千葉の十一月スト方針に恐怖した敵の側からの焦りからかれた反動的挑戦である。

われわれは、断じて引き下がることはできない。

処分の受け取り拒否、職場での怒りの抗議行動を直ちにまきおこし、十一月ストの貫徹で、当局と反動中曾根に労働者の怒りと実力を思い知らせる回答を思いっきり叩きつけてやるうではないか。

動労千葉、国労等「60・3ダイ改」監理委答申粉碎 闘争への不当処分（1985・10・5）

＜全 国＞処分数総数		64,387名
＜千葉局＞		
停 職	3月……………	1名 (国 労)
"	1月……………	1名 (動労千葉)
減 給	6月1/10………	2名 (国 労)
"	3月1/10………	3名 (国 労2)
"	1月1/10………	6名 (動労千葉1)
戒 告……………	225名	(国 労217)
訓 告……………	1,169名	(動労千葉8)
厳重注意……………	40名	(国 労1,150)
計	1,447名	(国労1,418、動労千葉29)